

教科・科目	社会と情報 必修・選択	単位	対象学年・組	1学年必修
教科書	新・見てわかる社会と情報（日本 文教出版）・パーフェクトガイド 情報（実教出版）	教科担任	東・飯岡・竹間	

1 目 標

- 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

2 学習の到達目標

- 情報の意味や表現手段などについて正しく理解する
- 情報機器を適切に活用し、情報を収集、分析しながら問題を解決する力を身につける。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	講義 情報の活用 情報モラル 情報機器の使い方 実習 ワープロソフト実習	18	講義 情報社会の光と影を理解し、個人情報の保護や知的財産を尊重する態度を育てる 実習 基礎的な操作を身に着ける	講義 情報社会への理解、他者への尊重を身近な例を示して理解できるようにする。 実習 基礎力の育成に重点を置く。
二 学 期	講義 問題解決 情報社会の課題 情報セキュリティ 実習 検定受験 表計算ソフト実習	32	講義 実際に自ら問題を発見し、さまざまな情報を分析して解決策を考える。 セキュリティ意識を身に着ける 実習 検定受験を通じて力を確認する	講義 問題の本質について検討し、問題を解決する手順と方法を理解する。 実習 文書デザイン検定を受験する 表計算ソフトウェアを活用した情報の分析の方法を習得する。
三 学 期	講義 実習を通して行う 表現の工夫 表現と伝達 実習 プレゼンテーション ソフトウェア実習	20	基礎的な操作の学習を通して、表現により伝わるものが変わること、伝えるために工夫が必要であることを学習する。 制作及び発表を通して伝達表現力を身につける	効果的に情報を伝えるために発信の手順や方法を学ぶ。 プレゼンテーションソフトウェアを活用した情報発信の方法を習得する。 わかりやすい表現を考えることで他人への思いやりを身に着ける

4 学習方法と生徒への注意

- 講義及び実習により学習を進める。
- 講義はプリントへの記入状況、実習はファイルの完成度により知識・技能を評価する。
- 平常点（授業に対する意欲および態度、出席状況、持ち物など）が評価に反映される。
- 授業時のルール（飲食物の持ち込み、携帯端末の操作の禁止等）を守れているかも評価に反映する。

5 評価の観点・方法

次の①～④を点数化し、持ち点により評価を決める。学年評定は1～3学期の授業時数の重みを加え評定を平均化して算出する。

- ① 確認テスト ②プリント類 ③作品（データ）④授業に対する意欲および態度、出席状況

教科・科目	情報の科学 必修・選択	単位	対象学年・組	3学年必修選択
教科書	情報の科学新訂版（東京書籍）、 新「情報」活用テキスト（P検定 準拠）	教科担任	東	

1 目 標

情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現する。また、情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱えるようになる。

2 学習の到達目標

- ・情報の収集と検索、データの分析、解決案の評価や改善について理解している。
- ・情報の特徴、情報化の光と影について理解している。
- ・情報を効果的に処理することができる能力および態度を養う。

3 学習内容と学習上の留意点

	単 元	配当 時間	学 習 内 容	学 習 上 の 留 意 点
一 学 期	・ P 検定基本問題 ・ P 検定受験	18	・情報、及び情報社会についての基礎的な知識、技能について学ぶ。 ・資格試験の受験。	・検定受験に向けて、情報に関する基礎的な内容を理解し、基本的なソフトウェアを活用した実践ができるようになる。受験後の振り返りを必須課題とする。
二 学 期	・情報と情報社会の特徴 ・情報社会でのモラルと責任 ・問題解決の工夫 ・マルチメディア作品の制作	32	・情報化による利便性（情報化の「光」）と危険性（情報化の「影」）について学ぶ。 ・匿名性の特徴、ネットワーク上のルールとマナー、情報の受信者・発信者としてのモラルと責任について学ぶ。 ・表計算ソフトの利用 ・プレゼンテーションソフトの利用	・情報の特徴、情報化の光と影について理解しているか。 ・情報社会でのモラルや責任について、自己の考えを整理できるか。 ・課題作品の提出が必須。 ・表計算ソフトウェアを使用する。 ・プレゼンテーションソフトウェアを使用する。
三 学 期	・マルチメディア作品の制作	20	・プレゼンテーションソフトの利用	・プレゼンテーションソフトウェアを使用し発表を行う。 ・課題作品の提出が必須。

4 学習方法と生徒への注意

- ・各自の特性を踏まえ、座席・色の使い方に配慮する。
- ・検定合格を目標として知識、技能の習得を目指す。
- ・授業規律を徹底させる。

5 評価の観点・方法

- ・授業の意欲、態度を中心に評価の観点とする。
- ・課題の取り組み、検定試験結果等を総合的に評価する。